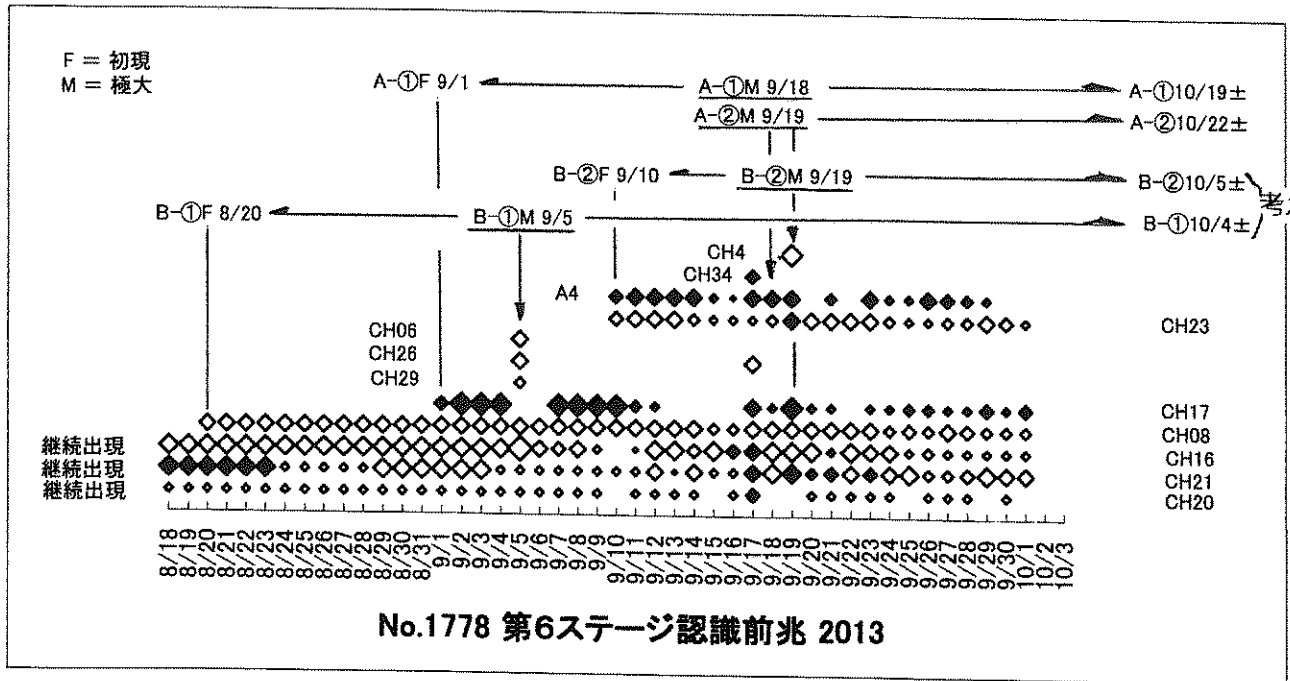


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告  
第6ステージ 初現・極大の関係を 誤認識していた可能性有



考えにくい

2008年07月初旬から5年3ヶ月と云う観測歴上(1995年以降)過去最長の前兆継続となる特殊前兆=No.1778の続報、現況報告です。No.1778は、段階的・塊的に前兆群が出現し、現在までに6ステージの前兆群が出現致しました。

本年9月5日極大認識から、第6ステージ前兆群認識です。

上図は第6ステージ前兆群出現状況図です。9月5日の極大認識のあとは、9月17日、9月19日に複数観測装置に特異状態等が出現し、極大と認識しています。

上図を参照して頂きますとお判りのとおり、前兆数は段階的に増加し、9月18日±が山型の頂の形に見えます。秋田観測点のA4観測装置の特異状態は9月29日昼前に終息しています。またハヶ岳のCH20もほぼ正常基線です。ハヶ岳のCH8, 23も特異変動値が小さくなって、全体として前兆レベルは決して顕著化ではなく、静穏化傾向に見えます。

さて、当該No.1778前兆では、段階的に出現した前兆群の複数の極大に対し、複数観測装置による前兆初現又は、複数観測装置による前兆終息のいずれかの関係から、ある特定の時期が計算されました。(前兆初現~発生 $T_{fap}$ : 極大~発生 $T_{map}$ =20:13 経験則より、前兆初現~極大: 極大~発生=7:13 比率を使用) また、前兆極大~発生 $T_{map}$ : 静穏期 $T_{pp}$  =3.9:1 経験則使用) 各ステージの前兆群から示された日は地震発生日ではなく、次ぎのステージ前兆群の最初の極大等であったことは既に報告済です。

今回の第6ステージ前兆群でも、最初の極大9月5日と次の極大9月17日、9月19日に対して、初現の可能性を求めて、

第6ステージ前兆群を示す日を特定しようと試みてきました。上図の前兆出現プロット印の上部に記したB①、B②がその認識です。この認識が仮に正しい場合は、計算上10月1日日本国終わり頃までに前兆が終息することが計算されます。示される日が10月6日の場合は、明日の10月2日に終息する計算となります。

10月5日±発生の可能性考え難い。前兆終息確認後推定

確かに各前兆は静穏傾向に見えますが、本日10月1日夕刻現在、まだ5観測装置に明らかな前兆が見えます。このような状態で突然全ての前兆が終息し、静穏期に入るとは過去例から考えにくく、従って、10月5日±発生の可能性は極めて考えにくいことになり、現在までの前兆初現~極大の関係を誤認識していた可能性が高いと判断せざるを得ません。大変申し訳ありません。

あらためて、上図の第6ステージ前兆群全体を見ても、9月18日±に全体の極大が見えます。9/1からのCH17の糸状特異は、継続的に出現している様に見え、これを初現認識しますと、上図Aの関係となり、9月17日と19日の極大の中心である9月18日を極大とした場合と19日を極大とした場合で、3日程差が出ますが、早い場合でも10月20日±となりそれまでに対応地震が発生する可能性は考えにくい認識となります。上図のAの関係が正しくない可能性もありますので、実際の前兆終息を確認して、第6ステージが示す時期を決定したいと考えます。引き続き観測を続け続報予定です。※考え難いですがここ数日以内に前兆が終息した場合は緊急続報を予定。(※ 10/20±が正しい場合=10/12±頃静穏化の可能性有)